

令和7年度（2025年度）

中学校社会科用

「新編 新しい社会 地理」

年間指導計画作成資料

令和7年（2025年）1月29日版

※単元ごとの配当時数、学習目標、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

地理的分野

指導計画表・評価規準

※本資料で1時間ごとに示している評価規準の例は、学習改善につなげるための形成的な評価の一例であり、必ずしも1時間ごとに事実的な知識の獲得を評価する趣旨ではありません。

評価の観点	知技	知識・技能
	思判表	思考・判断・表現
	態度	主体的に学習に取り組む態度
評価規準の例	○	評定に用いる評価
	●	学習改善につなげる評価

地理学習の初めに

(配当 1 時間)

◆評価規準の例

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
1	巻頭 1～3、 p.1	■世界の食事を見てみよう！ ■持続可能な社会の実現に向けて	・ 世界各地の食事の写真から、食材や調理方法などに注目して多様な食文化があることに触れ、地理的分野の学習に対する関心を高める。	態度	●世界の各地の食事の様子から文化の多様性について関心を高め、よりよい社会の実現を視野に、主体的に学習していこうという態度を示している。
			・ 持続可能な社会へ向けて、これからどのようなことを学んでいくべきなのかを理解する。	知技	●景観写真などを読み取り、普段の生活や小学校における学習の知識を活用して、これから学習する内容を理解している。

第1編 世界と日本の地域構成

第1章 世界の姿

(配当7時間)

学習指導要領との関連：A(1)①

◆評価規準の例（章全体）

指導目標	・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し、理解させる。	知識・技能	○緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。
	・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。
	・世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
2	p.8~9	■編纂 ■導入の活動 クイズカードを作ろう	・世界の国・日本の都道府県クイズ（景観写真、名物、国旗・県章）を通して、小学校社会科、映像や書籍、旅行などで身に付けた世界や日本に関する知識を整理する。	知技	●世界の国・日本の都道府県の特色を記したカードの作成やクイズの出題・回答を通して、小学校で身に付けた知識を整理している。
			・世界や日本の地域構成の特色を考察し、理解するために「世界や日本はどのような姿をしているのでしょうか」という探究課題を立て、主体的に追究する。	態度	●設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
3	p.10~11	1 地球の姿を見よう	・衛星写真や地球儀から世界の姿を大まかに眺め、大観する。	知技	●衛星写真や地球儀を活用し、大陸と海洋の大まかな形状と位置関係を理解している。
			・世界地図を活用して、六大陸、三大洋、6州の名称や大きさ、位置関係を捉える。	知技	●六大陸、三大洋、6州の名称と位置、大きさについて理解し、その知識を身に付けている。
4 5	p.12~15	2 世界のさまざまな国々	・地図帳の世界地図や国旗から、現代世界は多様な国々や地域から構成されていることを大まかに理解する。	知技	●地図帳の世界地図や国旗から、国の面積の大小、国境線を含めたさまざまな形を理解している。
			・地図帳の世界地図や写真資料等から国境線には違いがあることに着目し、なぜこのような違いがあるのかを考察する。	思判表	●地図帳から直線的な国境線とその他の国境線が引かれた理由の違いを考察している。
			・地図帳の統計資料を活用し、面積の大きい国と小さい国、人口の多い国や少ない国を調べ、世界にはさまざまな国があることを理解する。	知技	●教科書および地図帳の統計資料を活用して、各国の面積や人口について適切に調べている。
			・上記の活動を通して、世界60か国以上の国の名称や位置を捉える。	知技	●主な国々の名称と位置、世界の地域区分を理解し、その知識を地図上で身に付けている。

6	p.16～17	3 地球上の位置を表そう	・地球の模式図から緯度と経度について理解するとともに、緯度と経度を用いて、地球上の位置を表す力を身に付ける。	知技	●緯度と経度を活用して特定の国や都市の地球上の位置を適切に表すことができています。
			・地図帳を用いて、さまざまな都市の位置を探す力を身に付ける。	知技	●地図帳を用いてさまざまな都市の位置を探している。
7	p.18～19	4 地球儀と世界地図を比べてみよう	・地球儀を用いて、距離や方位などを調べながら、地球儀の扱いを身に付ける。	知技	●地球儀を使いながら距離、方位などを調べるための技能を身に付けている。
			・さまざまな世界地図から、それぞれの地図の正しく表現できる部分とできない部分、地球儀との違いについて理解する。	思判表	●さまざまな世界地図（地球儀を含む）を比較しながら、それぞれの長所や短所についてまとめている。
8	p.20～21	■まとめの活動 1 編 1 章の学習をまとめよう	・探究課題を追究したり、まとめの活動を行ったりする過程で、これまでの学習内容を振り返り、世界の地域構成を大観する。	知技	○探究課題を追究したり、「世界の国クイズ上級編」を作成したりする過程で緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを振り返り、世界の地域構成を大観し理解している。
			・世界はどのような姿をしているのかを、陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察している。	思判表	○世界の地域構成の特色を、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、世界の姿の学習内容を振り返りつつ、探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究している。

第2章 日本の姿

(配当6時間)

学習指導要領との関連：A(1)②

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観させ、理解させる。	知識・技能	○日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し、理解している。
	・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目させて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。
	・日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
9	p.22～23	1 世界の中での日本の位置	・世界地図から、日本がどのような位置にあるのか、緯度や経度に着目して捉える。	知技	●緯度や経度を利用しながら日本が世界の中でどのような位置にあるか理解している。
			・地球儀や正距方位図法から、世界の他の地域からみて日本がどのような位置にあると言えるのかを考察する。	思判表	●日本の位置を緯度や経度、他地域との関係など多角的な視点から考察し、表現している。
			・日本の地域構成の特色を考察し、理解するために「日本はどのような姿をしているのでしょうか」という探究課題を立て、主体的に追究する。	態度	●設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
10	p.24～25	2 時差から見た日本の位置	・標準時と時差の仕組みを理解し、地図や計算に基づいて他国と日本の時差を調べる力を身に付ける。	知技	●標準時と時差の仕組みを理解し、地図や計算に基づいて他国と日本の時差について理解している。
			・時差を通して地球上における世界各地に対する日本の位置関係を捉え、日本の地域構成の特色を理解する。	知技	●時差を通して地球上における日本と世界各地との位置関係を捉え、日本の地域構成の特色を大観し理解している。
11	p.26～27	3 日本の領域の特色	・日本の領域と排他的経済水域を示した地図から日本の領土や領域を捉える。	知技	●日本の領域・排他的経済水域の範囲や国境について理解している。
			・地図から、日本が他国に対して、比較的広い領海や排他的経済水域を有している理由を考察する。	思判表	●他国と比較してなぜ日本が国土面積の割に広い領海や排他的経済水域を持つかを、地図に基づいて説明している。
12	p.28～29	4 北方領土・竹島と尖閣諸島	・竹島、北方領土、尖閣諸島の位置と、地域的特色、どの国との問題を抱えているかを理解する。	知技	●竹島、北方領土、尖閣諸島の位置や特色、領土をめぐる問題の存在について理解している。
			・日本固有の領土である竹島、北方領土、尖閣諸島が他国との間で問題となっている理由や今後のことについて考察する。	思判表	●竹島、北方領土、尖閣諸島がなぜ近隣諸国と問題になっているのか、また、よりよい社会の実現へ向けてどのようにすべきかを考察している。
13	p.30～31	5 日本の都道府県と県庁所在地	・都道府県や都道府県庁所在地の名称と位置を地図上で捉え、その他の資料を通して、都道府県の境界や現在に残る昔の地名・旧国名について理解する。	知技	●都道府県や都道府県庁所在地の名称と位置を、地図上の境界や現在に残る昔の地名・旧国名と関連付けて理解している。
			・日本の諸地域学習を進める上での7地方区分とその名称を捉える。	知技	●7地方区分について地図から読み取り、その名称や範囲を理解している。

14	p.32～33	■まとめの活動 1 編 2 章の学習を まとめよう	・探究課題を追及したり、まとめの活動を行ったりする過程で、これまでの学習内容を振り返り、日本の地域構成を大観する。	知技	○探究課題を追及したり、「日本の都道府県クイズ 上級編」を作成したりする過程で日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化などを振り返り、日本の地域構成を大観し理解している。
			・日本はどのような姿をしているのかを、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに注目して多面的・多角的に考察する。	思判表	○日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、日本の姿の学習内容を振り返りつつ、探究課題を主体的に追及する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追及している。

第2編 世界のさまざまな地域

第1章 人々の生活と環境

(配当10時間)

学習指導要領との関連：B（1）

◆評価規準の例（章全体）

指導目標	・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解させる。	知識・技能	○人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。
	・世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。その際、世界の主な宗教の分布についても理解させる。		○世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。
	・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目させて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。
	・世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
15	p.34～35	■章扉 ■導入の活動 人々の暮らしを写真から探ろう	・写真資料を読み取る技能を身に付け、人々の生活の工夫と自然環境についてまとめる。 ・多様な自然環境のもとで暮らす人々の生活を理解するために、「世界各地の人々の暮らしは、場所によってどのようなちがいがあるでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	思判表	●写真資料の比較から、各地の自然環境の特色を読み取り、気付いたことを表にまとめている。
16	p.36～37	1 雪と氷の中で暮らす人々	・寒帯地域の伝統的な生活を理解し、現在の暮らしがどのように変化してきたのか考察する。 ・世界各地の人々の生活と環境を学習するための基礎として、雨温図の読み取り方を身に付ける。	思判表	●過去と現在のイヌイットの生活を比較し、その変容がどのような条件によるのかを考察している。
17	p.38～39	2 寒暖の差が激しい土地に暮らす人々	・寒帯地域との違いに着目し、亜寒帯（冷帯）地域の自然環境とそこで暮らす人々の生活の関係について考察する。 ・日本の自然環境との違いや共通点を写真や映像資料、雨温図などの資料から読み取る。	思判表	●シベリアに住む人々の生活の特色について自然環境と関連付けて考察している。
18	p.40～41	3 温暖な土地に暮らす人々	・日本と同じ温帯地域でありながら、日本とは異なる自然環境や生活の特色が見られることを理解し、その背景を考察する。 ・イタリアの暮らしの変化に着目し、伝統を守る人々の取り組みについて理解する。	思判表	●温帯の気候で生活している人々の暮らしについて自分たちの生活と比較しながらその特色を考察し、その結果を適切にまとめ、表現している。
				知技	●古い町並みや伝統的な食文化を保存しようとする人々の努力について理解している。

19	p.42～43	4 乾燥した土地に暮らす人々	・乾燥帯地域の自然環境と、そこで暮らす人々の生活の工夫を理解する。	知技	●サヘルに住む人々の生活の様子を理解し、それらの特色を自然環境と関連付けて説明できる知識を身に付けている。
			・自然及び社会的環境に着目し、地域の人々の生活が変化している様子を捉え、表現する。	思判表	●乾燥した地域で暮らす人々の生活や文化が生まれた背景と変化の過程について、自然及び社会的条件を踏まえて考察し、その考察の結果を論述している。
20	p.44～45	5 常夏の島で暮らす人々	・熱帯地域の自然環境と、そこで暮らす人々の生活の特色を見出し、その背景を考察する。	思判表	●農産物や食生活、伝統的な文化などに関連付けて、熱帯の気候で暮らす人々の生活の様子を考察し、論述している。
			・伝統的な暮らしの変化に着目し、自然を守りながら持続可能な開発を実現するための取り組みについて理解する。	知技	●自然豊かなサモアでは、地域開発の必要性や課題があることや、その解決のための手立てについて理解している。
21	p.46～47	6 標高の高い土地に暮らす人々	・高山気候の地域の自然環境や、そこで暮らす人々の生活の工夫について理解する。	知技	●高地に暮らす人々の生活やその変化について、さまざまな資料を通して理解している。
			・高地で暮らす人々の衣食住に着目し、他の地域の生活との比較から特色を見出し、理解する。	知技	●高地における人々の生活について、既得知識と関連付けて特色を理解し、その知識を身に付けている。
-	p.48～49	[もっと知りたい！] 世界に見られるさまざまな気候	・気温と降水量の違いに着目し、世界の気候は、気候帯やさらに細かい気候区に区分できることを理解する。	知技	●世界各地のさまざまな気候は、さらに細かく区分できることを気候区分図から読み取っている。
			・各気候区の特色について、植生、気温、降水量、緯度、標高などに関連付けて考察する。	思判表	●風景や植生写真、雨温図、気候区分図などの関連から、各気候区の特色を考察し、表や地図を作成してまとめている。
22	p.50～51	7 伝統的な生活文化とその変化	・世界各地に見られるさまざまな衣食住の特色について、自然環境に応じた工夫と関連付けて理解する。	知技	●世界各地の人々の暮らしの特色を、写真や地図などから読み取り、自然環境と関連付けて理解している。
			・人々の伝統的な生活様式について、グローバル化の影響を受けて変化していることを理解する。	知技	●写真や地図などから人々の伝統的な生活が変化していることを捉え、その背景について説明できる知識を身に付けている。
23	p.52～53	8 人々の生活に根付く宗教	・世界にはさまざまな宗教や、宗教と関わりの深い生活が営まれていることを、日本の社会を踏まえて理解する。	知技	●世界的に広がる主な宗教の分布の広がりや生活との関わりを大まかに把握し、具体的な例を挙げて地球儀や世界地図を用いて説明できる知識を身に付けている。
			・世界的に広がる宗教の分布を主題図から読み取るとともに、それらの広がりを大まかに把握する。	思判表	●世界的に広がる主な宗教の分布の様子を主題図から読み取り、特色をまとめている。

24	p.54～57	■まとめの活動 2編1章の学習を まとめよう	・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることや、宗教を含む世界の人々の生活には多様性があることなどついて、「まとめの活動」を通して振り返り、これらを理解する。	知技	○人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることや、宗教を含む世界の人々の生活の多様性について「世界旅行」の「旅程表」を作成する形でまとめ、理解している。
			・世界の人々の暮らしが、場所によって異なっている理由を、その自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、「世界旅行」のプランとして表現する。	思判表	○世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目し、「世界旅行」という形で多面的・多角的に考察し表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、世界各地の人々の生活と環境の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予想をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。

第2章 世界の諸地域

(配当29時間)
学習指導要領との関連：B(2)

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解させる。	知識・技能	○世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。
	・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解させる。		○アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解している。
	・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。		○アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
-	p.58～59	■章扉 ■導入の活動 SDGsから「地球的課題」を考えよう	・地球的課題にはどのようなものがあるのかを理解する。	知技	●SDGsのピクトグラムや写真資料から、具体的な地球的課題を読み取り、理解している。
			・SDGsに関連付けて各州の課題を考察し、ワークシートに整理する。	思判表	●複数の写真資料の比較から各州の地球的課題について考え、ワークシートにまとめ、表現している。

1 節 アジア州

(配当 7 時間)

学習指導要領との関連：B(2)①

◆評価規準の例（節全体）

指導 目標	・ アジア州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解させる。	知識・技能	○ アジア州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。
	・ アジア州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解させる。		○ アジア州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解している。
	・ アジア州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○ アジア州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ アジア州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○ アジア州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
-	p.60～61	■節扉 ■世界の窓 ーアジア編ー	・ 写真やグラフなどから、小学校社会科、映像や書籍などでこれまで身に付けたアジア州に関する知識を整理し、学習に見通しを持つ。 ・ 「世界の窓」の写真などから、アジア州の特色を読み取る。	態度	●扉や「世界の窓」を見て、アジア州への関心を高めるとともに、小学校で身に付けた知識を整理して主体的に学習に取り組もうとしている。
				知技	●「世界の窓」の六つの資料などから、アジア州の地域的特色を大まかに捉え、理解している。
25	p.62～63	1 アジア州をながめて	・ アジア州の自然、文化、人口、産業について、雨温図や分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・ アジア州の地域的特色を理解するため、「アジア州の経済発展は、地域にどのような影響をあたえているでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	知技	●変化に富む自然環境や、多彩な文化が見られ、都市化が急速に進むアジア州を概観し、理解している。
				態度	●アジア州の概観を通して設定した探究課題の答えを予想し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
26	p.64～65	2 巨大な人口が支える中国	・ 写真やグラフから、中国経済の発展の様子を捉え、その背景を考察する。 ・ 中国の経済成長について、その成果と課題の両面について理解する。	思判表	●中国の工業化が進んだ理由を、経済政策と人口の観点から考察している。
				知技	●中国の経済成長と経済格差の広がりについて理解している。
27	p.66～67	3 急速に変化する韓国	・ 写真やグラフなどから、韓国の産業や文化の特色を捉え、経済成長の背景を考察する。 ・ 首都ソウルへの一極集中など、都市における過密の問題について理解する。	思判表	●韓国で急速に経済成長した理由を、輸出品の変化から捉えた産業構造の変化などの観点から考察している。
				知技	●韓国に見られる首都への一極集中や都市の過密問題について理解している。

28	p.68～69	4 都市化が進む東南アジア	・東南アジア諸国の輸出品の変化などから産業の変化を捉え、工業化が進んでいる様子について理解する。	知技	●東南アジアでは輸出品が原材料から機械類などの工業製品に変化していることを読み取っている。
			・東南アジア諸国における農村から都市への人口移動とその課題を捉える。	思判表	●東南アジアの農村と都市の変化について、農村から都市への人口移動、都市問題などの視点から考察している。
29	p.70～71	5 人口増加が続く南アジア	・インドにおける経済発展と都市の変化の実態を、写真、グラフなどを通して捉える。	知技	●写真やグラフなどの資料から、インドの工業発展や人口増加の様子とその問題点を捉えている。
			・資料を使って、インドが急速に発展した理由を考察する。	思判表	●インドの経済発展の理由について他地域との結び付きに着目して考察している。
30	p.72～73	6 資源が豊富な西アジア・中央アジア	・写真や地図、グラフなどから、西アジアや中央アジアの国々の文化や産業の特色を読み取る。	知技	●地図やグラフなどの資料から、西アジアや中央アジアの国々が鉱産資源に頼っていることを読み取っている。
			・西アジアや中央アジアの経済発展の共通点を、アジア内の他地域と比較して考察する。	思判表	●資料から西アジアや中央アジアの経済発展の共通点について考察し、それを適切に表現している。
31	p.74～76	■まとめの活動 アジア州の学習を まとめよう 〔資料から発見！〕資料を活用する力をきたえよう①	・アジア州において、地域で見られる経済成長にともなう課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、多面的・多角的に考察する。	思判表	○アジア州において急速に経済が成長してきた理由や課題について多面的・多角的に考察し、具体的に表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、アジア州の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。
			・アジア州に暮らす人々の生活を基に、地域的特色とそこで見られる地球的課題を「まとめの活動」を通して振り返り、理解する。	知技	○これまで学んできたアジア州の経済成長の理由や課題を表にまとめて振り返り、アジア州の地域的特色を理解している。
-	p.77	[もっと知りたい！] ムスリムの暮らしを知ろう	・イスラーム（イスラム教）が人々の日常生活と深く関わっていることと、それが地域的に多様であることを理解する。	知技	●ムスリムが「クルアーン（コーラン）」にしたがって日常生活を営んでいることと、地域によってその関わりに違いが見られることを理解している。
			・イスラーム（イスラム教）をはじめとする宗教の実態を示す諸資料を通して、どのような捉え方をすべきかを考察する。	思判表	●イスラーム（イスラム教）をはじめ、宗教に対してどのような捉え方をすべきかを考察している。

2 節 ヨーロッパ州

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連：B(2)②

◆評価規準の例（節全体）

指導 目標	・ヨーロッパ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解させる。	知識・技能	○ヨーロッパ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。
	・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解させる。		○ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解している。
	・ヨーロッパ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。		○ヨーロッパ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。		○ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
		思考・判断・表現	
		主体的に学習に取り組む態度	

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例
-	p.78～79	■節扉 ■世界の窓 ーヨーロッパ編ー	・写真やグラフなどから、小学校社会科、映像や書籍などでこれまで身に付けたヨーロッパ州に関する知識を整理し、学習に見通しを持つ。 ・「世界の窓」の写真などから、ヨーロッパ州の特色を読み取る。	態度 ●扉や「世界の窓」を見て、ヨーロッパ州への関心を高めるとともに、小学校で身に付けた知識を整理して主体的に学習に取り組もうとしている。 知技 ●「世界の窓」の六つの資料などから、ヨーロッパ州の地域的な特色を大まかに捉え、理解している。
32	p.80～81	1 ヨーロッパ州をながめて	・ヨーロッパ州の自然、人口と民族、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、ヨーロッパ統合の背景を含む基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・ヨーロッパ州の地域的特色を理解するために、「ヨーロッパ州での国家間の統合は、地域にどのような影響をあたえているでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	知技 ●ヨーロッパ州には、民族を基にした小国が多いこと、地域により異なる農業が盛なこと、共通の文化が見られることなどを概観し、ヨーロッパ統合の背景を理解している。 態度 ●ヨーロッパ州を概観して設定した探究課題の答え予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
33	p.82～83	2 ヨーロッパ統合の動き	・ヨーロッパ州で統合されてきた内容を、写真、分布図などの資料と本文を関連付けて読み取る。 ・ヨーロッパ州の国々が国境をこえた統合を進めてきた理由や利点について、EU、アメリカ合衆国、日本を比較した統計資料などを基に考察する。	知技 ●ヨーロッパ州が統合を進めてきたことを、国境をこえた交通網や通勤・買い物、共通通貨などのさまざまな資料を関連付けることで読み取っている。 思判表 ●ヨーロッパ州の国々が国境をこえて統合することの利点について、産業、人々の生活、交通の三つの視点から説明している。

34	p.84～85	3 持続可能な社会に向けて	・ヨーロッパ州の環境に配慮した人々の活動を、諸資料の読み取りを通して理解する。	知技	●ヨーロッパ州の環境に配慮した消費生活やエネルギー利用、観光に対する考え方などを資料から読み取り、理解している。
			・ヨーロッパ州で環境問題についての国境をこえた協力が早くからなされてきた背景を、その地域的特色を踏まえて考察する。	思判表	●ヨーロッパ州で起こっている国境をこえた環境問題について、EU共通の取り組みの視点から考察している。
35	p.86～87	4 ユーロッパ統合がかかえる課題	・EU加盟国間の格差や対立について、写真やグラフ、主題図から読み取る。	知技	●EU各国の平均賃金や、ヨーロッパに居住する外国人の出身国の主題図などから、EUが抱える課題を読み取っている。
			・ヨーロッパにおける産業の仕組みの変化と、それにとまなう移民・難民への対応など、EUが抱える課題について考察する。	思判表	●ヨーロッパが統合することの問題点や課題を、EU加盟国間の対立やEUと他地域との関係に着目して説明している。
36	p.88～90	■まとめの活動 ユーロッパ州の学習をまとめよう [資料から発見！] 資料を活用する力をきたえよう②	・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、地域的特色とそこで見られる地球的課題を「まとめの活動」を通して振り返り、理解する。	知技	○これまで学んできたヨーロッパ州の地域的特色を踏まえて、地域統合が進んできた背景や良い影響、課題を図にまとめて振り返り、ヨーロッパ州の地域的特色を理解している。
			・ヨーロッパ州において、地域の統合にとまなう課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、統合をめぐるさまざまな動きが見られる理由とともに、今後の動きについて多面的・多角的に考察する。	思判表	○ヨーロッパ州において、地域統合が進んできた背景や良い影響、課題を踏まえて、今後どのようにしていくべきかについて多面的・多角的に考察し、表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、ヨーロッパ州の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。
-	p.91	[もっと知りたい！] アジアとヨーロッパにまたがる国 ロシア	・近年、ヨーロッパの国々との結び付きを強めるロシアの産業について、主題図などの資料と関連付けて読み取る。	知技	●ロシアの鉱産資源の分布図から、それぞれの地域で発達している工業を、気候や地形などと関連付けて読み取っている。
			・ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの交通・物流面での重要性に気付く。	思判表	●ヨーロッパの国々とロシア連邦の結び付きについて、産業や交通の視点から考察している。

3 節 アフリカ州

(配当 4 時間)

学習指導要領との関連：B(2)③

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・アフリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解させる。	知識・技能	○アフリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。
	・アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解させる。		○アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解している。
	・アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこと見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこと見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
-	p.92～93	■節扉 ■世界の窓 ーアフリカ編ー	・写真やグラフなどから、小学校社会科、映像や書籍などでこれまで身に付けたアフリカ州に関する知識を整理し、学習に見通しを持つ。 ・「世界の窓」の写真などから、アフリカ州の特色を読み取る。	態度	●扉や「世界の窓」を見て、アフリカ州への関心を高めるとともに、小学校で身に付けた知識を整理して主体的に学習に取り組もうとしている。
37	p.94～95	1 アフリカ州をながめて	・アフリカ州の自然、歴史と文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・アフリカ州の地域的特色を理解するために、「アフリカ州では、どのような国際支援が必要でしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	知技	●広大な砂漠を持つ自然、古い歴史と伝統的な文化、農業や鉱業を中心とした産業などの特色を概観し、理解している。
38	p.96～97	2 アフリカの産業における課題	・アフリカ州のプランテーション農業やモノカルチャー経済の実態について、写真や地図、グラフから読み取る。 ・アフリカ州の産業から、国際支援がなぜ必要なのかを多面的・多角的に考察する。	知技	●アフリカ州の農業と工業の特色や問題点を、さまざまな資料を関連付けて読み取っている。
39	p.98～99	3 発展に向けた課題	・写真や地図から同じ都市においても格差が見られることや、アフリカ州の乳児死亡率が高いことを捉え、課題について考察する。 ・アフリカ州の課題について、都市化、人口増加、環境問題などの視点から理解する。	思判表	●アフリカ州の産業から、国際支援が必要な背景を多面的・多角的に考察している。
				思判表	●写真や表から、アフリカ州では都市化が進む一方で、農村地域との格差や生活水準が異なることを説明している。
				知技	●現在のアフリカ州が持つ課題について、三つの視点（都市化、人口増加、環境問題）を踏まえて理解している。

40	p.100～ 102	■まとめの活動 アフリカ州の学習 をまとめよう 〔資料から発 見！〕資料を活用 する力をきたえよ う③	・アフリカ州において、国際支援が必要とされ ている背景を、州という地域の広がりや地域内 の結び付きなどに着目し、今後の具体的な支援 策について多面的・多角的に考察する。	思判表	○アフリカ州において、国際支援が必要とさ れている背景を踏まえて、今後の、具体的な 支援策を多面的・多角的に考察し、表現して いる。
			・よりよい社会の実現を視野に、アフリカ州の 学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究 する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの 学習を振り返りながら、粘り強く考察する ことを通して主体的に探究課題を追究し、社 会に関わろうという態度を示している。
			・アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、地域 的特色とそこで見られる地球的課題を「まとめ の活動」を通して振り返り、理解する。	知技	○アフリカ州の課題とその要因、解決に向け た取り組みを図にまとめて振り返り、アフリ カ州の地域的特色を理解している。
-	p.103	[もっと知りたい！] 情報化で変わるア フリカの暮らしと 社会	・アフリカ州の国々の情報化が進んだことで、 人々の生活が大きく変わりつつあることを理解 する。	知技	●情報化の進展によって、アフリカ社会に金 融、医療、生活面で「モバイル革命」が起こ るなど、大きな変化が起きていることを理 解している。
			・アフリカで急速に情報化が進んだ理由を、ア フリカ内や他の州との結び付きに着目して考察 する。	思判表	●アフリカで急速にスマートフォンが普及し た理由を、大規模なインフラ整備を必要とし ない回線網、先進国のICT産業のアフリカへの 進出と関連付けて説明している。

4 節 北アメリカ州

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連：B(2)④

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・北アメリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解させる。	知識・技能	○北アメリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。
	・北アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解させる。		○北アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解している。
	・北アメリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○北アメリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・北アメリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○北アメリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
-	p.104～105	■節扉 ■世界の窓 ー北アメリカ編ー	・写真やグラフなどから、小学校社会科、映像や書籍などでこれまで身に付けた北アメリカ州に関する知識を整理し、学習に見通しを持つ。	態度	●扉や「世界の窓」を見て、北アメリカ州への関心を高めるとともに、小学校で身に付けた知識を整理して主体的に学習に取り組もうとしている。
			・「世界の窓」の写真などから、北アメリカ州の特色を読み取る。	知技	●「世界の窓」の六つの資料などから、北アメリカ州の地域的な特色を大まかに捉え、理解している。
41	p.106～107	1 北アメリカ州をながめて	・北アメリカ州の自然、文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	知技	●大陸と島々からなる多様な自然、移民によって持ちこみ育まれた文化、世界に影響を与える巨大な経済力などの特色を概観し、理解している。
			・北アメリカ州の地域的特色を理解するために、特に、アメリカ合衆国に注目しながら「北アメリカ州に多く見られる移民は、地域にどのような影響をあたえているでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	態度	●北アメリカ州を概観して設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
42	p.108～109	2 巨大な農業生産力	・アメリカ合衆国の大規模で合理的な農業の特色を、写真、グラフ、分布図などから読み取る。	知技	●アメリカ合衆国の大規模で合理的な農業の特色を、主題図や写真などのさまざまな資料を関連付けて読み取っている。
			・アメリカ合衆国が多様な農産物を大量に生産できる理由を、気候、生産方式、農場経営の仕方などの視点から考察する。	思判表	●アメリカ合衆国が多様な農産物を大量に生産できる理由を、気候、生産方式、農場経営の仕方などの特色から説明している。

43	p.110～ 111	3 巨大な工業生産力	・アメリカ合衆国で発展してきた重工業や先端技術産業の特色を、写真、グラフ、分布図などから読み取る。	思判表	●アメリカ合衆国の五大湖沿岸、サンベルトの工業地域について、主な工業の種類とそれが発展した理由を比べて、図表などにまとめている。
			・アメリカ合衆国の工業は、広大な国土と豊かな資源に加えて、ヨーロッパ州やアジア州からの移民の存在によって発展してきたことを理解する。	知技	●アメリカ合衆国では、移民が産業の発展に重要な役割を果たしてきたことを理解している。
44	p.112～ 113	4 新しい産業と生活文化	・世界各地に見られるショッピングセンターやファストフード店などから、アメリカ文化が世界に大きな影響を与えていることを理解する。	知技	●アメリカ合衆国の生活文化が、世界の国々に大きな影響を与えていることを理解している。
			・アメリカ合衆国の生活文化について、人口構成や移民に着目して考察する。	思判表	●アメリカ文化が世界中に広がっている理由を、人の動きに着目して説明している。
45	p.114～ 116	■まとめの活動 北アメリカ州の学習をまとめよう [資料から発見！] 資料を活用する力をきたえよう④	・北アメリカ州において、アメリカ合衆国への移民が多く見られる背景を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、多面的・多角的に考察する。	思判表	○アメリカ合衆国の発展が今後続いていくのかどうかを多面的・多角的に考察し、その結果や過程を通して、アメリカ合衆国へ移民が多く見られる背景を、具体的に表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、北アメリカ州の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。
			・北アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、地域的特色とそこで見られる地球的課題を「まとめの活動」を通して振り返り、理解する。	知技	○北アメリカ州でアメリカ合衆国への移民が多く見られる背景として、これまで学んできたアメリカ合衆国の地域的特色を踏まえた図にまとめて振り返り、理解している。
-	p.117	[もっと知りたい！] 巨大ハリケーンを予測せよ	・過去に大きな被害をもたらしてきたハリケーンから人々を守るために、その規模、速度、進路などの予測に最新のICTが活用されていることを理解する。	知技	●ハリケーンについて、その進路や被害の大きさとその対策について理解している。
			・ハリケーンセンターがマイアミに置かれている理由を、地理的な見方・考え方を働かせて考察する。	思判表	●ハリケーンセンターがマイアミに置かれている理由を考察し、表現している。

5 節 南アメリカ州

(配当 4 時間)

学習指導要領との関連：B(2)⑤

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・南アメリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解させる。	知識・技能	○南アメリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。
	・南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解させる。		○南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解している。
	・南アメリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○南アメリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・南アメリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○南アメリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
-	p.118～119	■節扉 ■世界の窓 ー南アメリカ編ー	・写真やグラフなどから、小学校社会科、映像や書籍などでこれまで身に付けた南アメリカ州に関する知識を整理し、学習に見通しを持つ。	態度	●扉や「世界の窓」を見て、南アメリカ州への関心を高めるとともに、小学校で身に付けた知識を整理して主体的に学習に取り組もうとしている。
			・「世界の窓」の写真などから、南アメリカ州の特色を読み取る。	知技	●「世界の窓」の六つの資料などから、南アメリカ州の地域的な特色を大まかに捉え、理解している。
46	p.120～121	1 南アメリカ州をながめて	・南アメリカ州の自然、文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	知技	●南北に細長い大陸の自然環境、混血の進行と新しい文化の形成、急速な経済の発展などの特色を概観し、理解している。
			・南アメリカ州の地域的特色を理解するために、「南アメリカ州の開発と環境保全には、どのような課題があるでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	態度	●南アメリカ州の概観を通して設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
47	p.122～123	2 自然環境を生かした暮らしと産業	・南アメリカ州の自然環境の様子を、写真や模式図などの資料から読み取る。	知技	●南アメリカ州の自然環境の特色を、写真や模式図などの資料から読み取っている。
			・南アメリカ州では、環境をどのように利用しながら生活してきたのか、大河流域と森林のそれぞれの地域から考察する。	思判表	●南アメリカの特徴的な地域である、アマゾン川流域、熱帯林の各地域で営まれてきた伝統的な生活を、自然環境との共生という観点から説明している。
48	p.124～125	3 開発の進行と影響	・アマゾン地域の写真や分布図などから、大規模な開発の影響と課題について読み取る。	知技	●アマゾン川流域で森林が減少している理由を、写真や主題図、グラフなどの資料から、大規模な開発と関連付けて読み取っている。
			・アマゾン川流域の環境問題について、農業や資源・エネルギー問題の視点から、その原因と解決策を考察する。	思判表	●アマゾン川流域の大規模な開発に起因する環境問題の解決に向けて、持続可能な開発の観点から説明している。

49	p.126～ 128	<p>■まとめの活動 南アメリカ州の学習をまとめよう</p> <p>〔資料から発見！〕資料を活用する力をきたえよう（実践編①）</p>	・南アメリカ州において、森林が減少している背景を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目し、持続可能な南アメリカ州の開発へむけて多面的・多角的に考察する。	思判表	○南アメリカ州において森林が減少している背景を踏まえて、持続可能な南アメリカ州の開発へ向けて多面的・多角的に考察し、表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、南アメリカ州の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予想をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。
			・南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、地域的特色とそこで見られる地球的課題を「まとめの活動」を通して振り返り、理解する。	知技	○南アメリカ州で森林が減少している背景を、これまで学んできた南アメリカ州の森林開発の状況を図にまとめて振り返り、南アメリカ州の地域的特色を理解している。
-	p.129	<p>[もっと知りたい！] 海の向こうで活躍する日系人</p>	・南アメリカ州には多くの日系人が住み、日系人社会を築いていることを理解する。	知技	●南アメリカ州には日系人が多いことやその活躍について理解している。
			・ブラジル社会において日系人が高く評価されるに至った歴史的な経緯について理解する。	知技	●日系人がブラジル社会でさまざまな貢献をしてきたことについて、具体例を踏まえて理解している。

6 節 オセアニア州

(配当 4 時間)

学習指導要領との関連：B(2)⑥

◆評価規準の例（節全体）

指導目標	・オセアニア州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解させる。	知識・技能	○オセアニア州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。
	・オセアニア州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解させる。		○オセアニア州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し、理解している。
	・オセアニア州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○オセアニア州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・オセアニア州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○オセアニア州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
-	p.130～131	■節扉 ■世界の窓 ーオセアニア編ー	・写真やグラフなどから、小学校社会科、映像や書籍などでこれまで身に付けたオセアニア州に関する知識を整理し、学習に見通しを持つ。	態度	●扉や「世界の窓」を見て、オセアニア州への関心を高めるとともに、小学校で身に付けた知識を整理して主体的に学習に取り組もうとしている。
			・「世界の窓」の写真などから、オセアニア州の特色を読み取る。	知技	●「世界の窓」の六つの資料などから、オセアニア州の地域的な特色を大まかに捉え、理解している。
50	p.132～133	1 オセアニア州をながめて	・オセアニア州の自然、文化の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	知技	●乾燥大陸と島々から成る自然、先住民の文化、貿易相手国の変化、などの特色を概観し、理解している。
			・オセアニア州の地域的特色を理解するために、「オセアニア州では、どのような地域との結び付きが強くなっているでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	態度	●オセアニア州の概観を通して設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
51	p.134～135	2 貿易や経済による他地域との結び付き	・オーストラリアやニュージーランドの農牧業や鉱業の特色を、写真、グラフ、分布図などから読み取る。	知技	●オーストラリアやニュージーランドの農牧業や鉱業の特色を、さまざまな資料を関連付けながら読み取っている。
			・オーストラリアの輸出品や貿易相手国の変化から、アジア州とのつながりが深まってきた理由を考察する。	思判表	●オーストラリアの輸出品や貿易相手国の変化について、アジア州との結び付きに着目して説明している。
52	p.136～137	3 人々による他地域との結び付き	・人々の交流の面から、オセアニア州とアジア州とのつながりが深まってきたことを理解する。	知技	●オセアニア・アジア間の人と人との結び付きや関わりが深まってきていることを理解している。
			・オーストラリアにおける、移民や先住民に対する政策の転換、移民の出身州の移り変わりに関して、多文化社会の形成という観点から考察する。	思判表	●オーストラリアを事例に、人種や民族、文化の異なる人々が共存して社会を築いていくためには何が必要かを、議論したり、意見交換したりしている。

53	p.138～ 140	<p>■まとめの活動 オセアニア州の学 習をまとめよう</p> <p>[資料から発 見!] 資料を活用 する力をきたえよ う(実践編②)</p>	<p>・オセアニア州において、アジアとの結び付き が強くなってきた理由を、州という地域の広が りや地域内の結び付きなどに着目し、多文化社 会を築こうとしている理由と関連付けて、多面 的・多角的に考察する。</p>	思判表	<p>○オセアニア州においてアジアとの結び付き が強くなってきた理由を、多文化社会を築こ うとしている理由と関連付けて多面的・多角 的に考察し、表現している。</p>
			<p>・よりよい社会の実現を視野に、オセアニア州 の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追 究する。</p>	態度	<p>○単元冒頭に立てた予想をはじめとする自ら の学習を振り返りながら、粘り強く考察する ことを通して主体的に探究課題を追究し、社 会に関わろうという態度を示している。</p>
			<p>・オセアニア州に暮らす人々の生活を基に、地 域的特色とそこで見られる地球的課題を「まと めの活動」を通して振り返り、理解する。</p>	知技	<p>●オセアニア州でアジアとの結び付きが強 まってきている背景を、これまで学んできた オセアニア州の他国との結び付きの変化を図 にまとめて振り返り、オセアニア州の地域的 特色を理解している。</p>
-	p.141	<p>[もっと知りたい!] 水没から国土を救 え</p>	<p>・ツバルが直面する環境問題の複雑さとその原 因、対策について、理解する。</p>	知技	<p>●ツバルの環境問題の実態やその解決に向け て、国際的な協力の必要性などを理解してい る。</p>
			<p>・日常生活の中で自分たちにできる環境問題の 取り組みについて、地球規模と身近な地域の両 方の視点から、考察する。</p>	態度	<p>●環境問題への取り組みについて、地球規模 と身近な地域の両方の視点から、主体的に考 えようとしている。</p>
-	p.142～ 143	<p>■まとめの活動 「地球的課題」を ふり返ろう</p>	<p>・世界の各州で見られた地域的特色を振り返り ながら地球的課題について考察する。</p>	思判表	<p>●各州の地球的課題についてSDGsと関連付け て考察し、全地球的な「18番目のゴール」を 設定しようとしている。</p>
			<p>・これまでの学習で捉えた地球的課題を踏ま え、日本の課題について考える。</p>	態度	<p>●地球的課題を基にして、身近な地域や日本 の課題について考えようとしている。</p>

第3編 日本のさまざまな地域

第1章 地域調査の手法

(配当6時間)

学習指導要領との関連：C(1)

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・ 野外観察や聞き取り調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解させる。	知識・技能	○ 野外観察や聞き取り調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。
	・ 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けさせる。		○ 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。
	・ 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目させ、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○ 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ 地域調査の手法を身に付けることで、対象となる地域の特色や課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○ 地域調査の手法を身に付けることで、対象となる地域の特色や課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
54	p.144～ 145	1 調査テーマを決めよう	・ 身近な地域の情報を集めて、それを基に適切な調査テーマを設定する。	思判表	● 身近な地域の特色に着目して、適切な調査テーマを設定している。
55 56	p.146～ 149	2 地形図を読み取ろう	・ 地形図について、縮尺、方位、等高線、地図記号などに着目して、地域の土地利用や地形を大観する。	知技	● 縮尺、方位、等高線、地図記号など地形図の基本的な読み取り方を理解し、地理的技能を身に付けている。
			・ 空中写真やデジタル地図などを使って、地域の特徴を捉える。	知技	● 地形図から身近な地域の特色を読み取り、理解している。
			・ 新旧の地形図を比較して地域の変化を読み取る。	知技	● 空中写真やデジタル地図、新旧地図を比較して、地域の様子や変化の読み取り方を理解し、地理的技能を身に付けている。
57	p.150～ 151	3 調査計画を立てよう	・ 身近な地域の調査テーマに基づいて、見通しをもって調査方法・調査計画を立て、主体的に追究する。	態度	● 身近な地域の特色や課題を予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
			・ 調査テーマに対して文献、統計、地図、写真などの資料を収集する方法を理解するとともに、地域の特色を捉える。	知技	● さまざまな資料から有用な情報を選択して、地域の特色などを読み取るなどの地理的技能を身に付けている。

58	p.152～ 153	4 野外調査に出よう	・ 野外観察や聞き取り調査を通して、地域調査の手法を理解するとともに、地域の特色を捉える。	知技	● 野外調査や聞き取り調査の視点や方法を理解し、地理的技能を身に付けている。
				知技	● 野外調査を通して地域的特色や課題を理解している。
59	p.154～ 155	5 調査の結果をまとめ発表しよう	・ 収集した資料を、調査目的や用途に適した地図や図表として適切にまとめる。	知技	○ 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法を踏まえた地理的なまとめ方の基礎を理解している。
			・ まとめられた資料を基に、身近な地域の調査テーマに対して多面的・多角的に考察する。	思判表	○ 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。
			・ 調査の動機と目的、調査方法と調査結果など、これまで学習してきた成果を分かりやすく発表する。	態度	○ 地域調査の手法について、単元冒頭で立てた予測をはじめとして、自らの学習を振り返りながら粘り強く考察することを通して、主体的に調査テーマを追究し、社会に関わろうという態度を示している。
			・ 他のグループの発表を通して新たな情報を収集し、調査テーマを主体的に追究する。		

第3編 日本のさまざまな地域

第2章 日本の地域的特色

(配当11時間)

学習指導要領との関連：C(2)

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどを基に、日本の①自然環境に関する特色を理解させる。	○日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどを基に、日本の①自然環境に関する特色を理解している。
	・少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の②人口に関する特色を理解させる。	○少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の②人口に関する特色を理解している。
	・日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の③資源・エネルギーと産業に関する特色を理解させる。	○日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の③資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。
	・国内や日本と世界との④交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解させる。	○国内や日本と世界との④交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解している。
	・①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分を踏まえ、日本の国土の特色を大観させ、理解させる。	○①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分を踏まえ、日本の国土の特色を大観し、理解している。
	・日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けさせる。	○日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。
知識・技能	・①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目させて、多面的・多角的に考察し、表現させる。	○①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。
	・日本の地域的特色を、①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分などに着目させ、それらを関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	○日本の地域的特色を、①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
思考・判断・表現	・日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	○日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
主体的に学習に取り組む態度		

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
60	p.156～ 157	■導入の活動 日本がどのような 国かイメージしよ う	・日本のさまざまな地域的特色を、地域と分布 に着目しながら、大きく捉える。	知技	●日本の特色に関して集めた資料を使って関 連図を作成し、日本にはさまざまな地域の特 色があることを理解している。
			・日本全体の地域的特色を理解するために、 「日本には全体としてどのような特色が見られ るでしょうか。一方でどのような多様性がある でしょうか」という探究課題を立て、見通しを もって主体的に追究する。	態度	●日本の地域的特色に関して設定した探究課 題の答えを予測し、見通しをもって主体的に 追究していこうとしている。
61	p.158～ 161	1 地形から見た日 本の特色	・日本は変動帯に属して、地震や火山の多い不 安定な大地上に位置していること、フォッサマ グナを境にして、山脈の走る方向が違うことな どを資料から読み取る。	知技	●日本の自然環境に関する特色を主題図や分 布図から適切に読み取り、日本の山地・山 脈、川、平地、海岸の分布や特色、海洋に囲 まれた国土の特色について理解している。
			・日本の川は、大陸と比べて急で短く、洪水を 引き起こしやすいため、上流ではダムが建設さ れている地域が多いことを理解する。		
			・日本には、河川などに運ばれた土砂で形成さ れた規模の小さな平野が臨海部に、また山に囲 まれた地域には盆地などが各地に分布している ことを分布図などから読み取る。		
			・日本の国土は海に囲まれ、多くの島々から構 成されるとともに多様な海岸が見られること、 近海には海底に大陸棚が広がり、寒暖の海流が 出合い世界的な漁場となっていることを理解す る。	思判表	●日本の地域的特色を、山地・山脈、河川、 平地、海などに着目して、これらに関連付 けて多面的・多角的に考察し、表現している。
			・日本の地域的特色を、山地・山脈、河川、平 地、海などの分布に着目して、これらに関連付 けて多面的・多角的に考察し、表現する。		
62	p.162～ 163	2 気候から見た日 本の特色	・日本の多くの地域は温帯に属し、降水量も多 く、森林、樹木が成長しやすい環境にあること を雨温図や景観写真などから読み取る。	知技	●日本の気候の特色を景観写真や雨温図、気 候区分図から読み取り、日本の気候の特色を 理解している。
			・日本列島にはなぜ六つの気候が存在するの かを、日本の山地、山脈の分布等に着目して考察 する。	思判表	●日本列島が六つの気候帯に大きく区分でき る理由について日本の山地・山脈の分布や細 長い地形などに着目して多面的に考察してい る。
63	p.164～ 165	3 日本で見られる さまざまな自然災 害	・日本は地震や火山の噴火、洪水といった自然 現象が多く発生し、自然災害として社会に大き な影響を及ぼしていることを理解する。	知技	●日本で発生する自然災害について、その原 因となる自然現象や社会への影響について理 解している。
			・日本で自然災害が起きている理由を、日本の 自然環境の特色だけでなく、住宅地の拡大など といった人間活動による変化の視点にも着目し て考察する。	思判表	●日本で自然災害が多く発生している理由を 自然環境の特色だけでなく、人間活動の変化 の側面からも考察している。

64	p.166～ 168	4 防災・減災に向けた取り組みと課題	・日本は大規模な地震や津波、台風など多様な自然災害が発生しやすい地域が多く、早くから、防災設備の充実、ハザードマップの作成など防災、減災対策に努めてきたことに気付く。	知技	●諸資料から、日本の多様な自然災害と防災への取り組みなどに着目し、日本は自然災害が発生しやすい地域が多く、その分防災・減災対策に努めていることを理解している。
			・国や地方公共団体の諸機関や担当部局、地域の人々やボランティアが連携して地域の人々の生命や安全の確保のために活動していることを読み取り、日本の防災対策を理解する。	知技	●さまざまな人々が連携して地域の人々の生命や安全の確保のために活動していることを理解している。
-	p.169	[もっと知りたい！] 鉄道が支える地域の復興	・日本で発生するさまざまな自然災害からの復興に公共交通機関が果たす役割について理解する。	知技	●鉄道の復旧によって災害で被害を受けた地域の復興につながっていった事例について調べ、公共交通機関が果たす役割を理解している。
			・自然災害によって鉄道が被害を受けることで、地域にどのような影響を与えることになるかについて考察する。	思判表	●自然災害によって鉄道が被害を受けることの影響について、他地域との結び付きの視点から考察している。
65	p.170～ 171	5 人口から見た日本の特色	・人口の移り変わりを示す資料や人口ピラミッドの変化、人口分布に着目して、少子高齢化、過疎、過密といった日本の課題を読み取る。	知技	●人口の移り変わりを示す資料や人口ピラミッドの変化などの資料から、少子高齢化の実態を、国内の人口分布を示す資料を通して過疎・過密問題の実態を読み取り、日本の人口に関する課題を理解している。
			・過疎、過密地域の抱える課題について多面的・多角的に考察する。	思判表	●過疎、過密地域が抱える課題について、多面的・多角的に考察している。
66	p.172～ 173	6 資源・エネルギーから見た日本の特色	・日本のエネルギー自給率や発電量の内訳を示す資料などから、日本の抱えている課題とその対策について多面的・多角的に理解する。	思判表	●日本の資源・エネルギー利用の現状や日本の発電方法に着目して、日本の課題について多面的・多角的に考察している。
			・環境、エネルギー問題に対処するために、再生可能エネルギーの開発やリサイクルなどの努力をしていることを理解する。	知技	●日本の抱える環境、エネルギー問題に対処するために、再生可能エネルギーの開発やリサイクルなどの努力をしていることを理解している。
67	p.174～ 175	7 産業から見た日本の特色	・日本の農業、工業が抱える課題について食料自給率や主な工業地帯、地域の分布図から読み取る。	知技	●日本の食料自給率が低下していること、産業の空洞化が起きていることなどを諸資料から読み取り、知識を得ている。
			・日本の第三次産業の盛んな地域について、その背景を考察する。	思判表	●日本の第三次産業が盛んな地域について、その理由を考察している。
68	p.176～ 177	8 交通・通信から見た日本の特色	・輸送手段に違いが見られる原因を、輸送距離、時間、地域性などに着目して考察する。	思判表	●日本で輸送手段に違いが見られる原因を、輸送距離、時間、地域性などに着目して多面的・多角的に考察している。
			・新幹線、高速道路、航路、航空路網、情報通信網などの整備が進んでおり、日本は海外と空や海の交通網、通信網が集中する拠点の一つに数えられていることを理解する。	知技	●日本の交通網の整備が進んでおり、世界的な拠点の一つになっていることを理解している。

69	p.178～ 179	9 ささまざまな視点から日本を地域区分しよう	・日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分の事例を学び、地域区分をする技能を身に付ける。	知技	●日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。
			・①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。	思判表	●①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。
70	p.180～ 181	■まとめの活動 3編2章の学習をまとめよう	・「まとめの活動」を通してこれまでの学習を振り返り、①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分を踏まえ、日本の国土の特色を大観し、理解する。	知技	○①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分を踏まえ、日本の国土の特色を、図にまとめて振り返り、日本の地域的特色を理解している。
			・日本の地域的特色を、①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、誤解を持つ外国人に日本を紹介する文章として表現する。	思判表	○日本の地域的特色を、①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分などに着目し、それらを関連付けて「外国人の誤解を解く」という形で多面的・多角的に考察し、具体的に表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、日本の地域的特色と地域区分の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする、自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。
-	p.182	[もっと知りたい！] 日本の発電所を見てみよう	・日本に見られる発電所の特色や発電方法から、さまざまな発電方法の特徴と課題を理解する。	知技	●従来の水力、火力、原子力の発電所の位置の特色、発電方法、新しい発電方法の特徴と課題について、さまざまな資料から読み取っている。
			・日本のさまざまな発電方法の特徴と課題について、よりよい社会の実現へ向けて、これからの日本の発電の在り方について、多面的・多角的に考察する。	思判表	●よりよい社会の実現を視野に、これからの日本の発電の在り方について、多面的・多角的に考察している。

第3章 日本の諸地域

(配当35時間)

学習指導要領との関連：C(3)

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・いくつかに分けた日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解させる。		
	・①自然環境、②人口や都市・村落、③産業、④交通や通信、⑤その他の事象を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解させる。	知識・技能	○いくつかに分けた日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ○①自然環境、②人口や都市・村落、③産業、④交通や通信、⑤その他の事象を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
	・日本の諸地域において、それぞれ①自然環境、②人口や都市・村落、③産業、④交通や通信、⑤その他の事象で扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○日本の諸地域において、それぞれ①自然環境、②人口や都市・村落、③産業、④交通や通信、⑤その他の事象で扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
-	p.183	■章扉	・日本の地域的特色と地域区分の学習を踏まえ、日本の諸地域の地域的特色を捉えるためのさまざまな視点に関心を持つ。	態度	●地域的特色を捉える視点に関心を持ち、日本の諸地域の学習に対する見通しを持とうとしている。
			・地域に見られるさまざまな事象が、自然環境や人口と都市・村落、産業、交通・通信、生活・文化などの視点によって整理できることを理解する。	知技	●地域に見られるさまざまな事象を視点ごとに整理して捉えている。

1 節 九州地方

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : C (3) ①

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・九州地方について、その地域的特色や地域の課題を理解させる。	知識・技能	○九州地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
	・①自然環境を中核とした考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解させる。		○①自然環境を中核とした考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
	・九州地方において、①自然環境の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○九州地方において、①自然環境の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・九州地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○九州地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
71	p.184～ 187	■節扉 1 九州地方をながめて	・九州地方について、地形図や雨温図などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	知技	●火山活動に由来する地形や温暖で多雨の気候からなる自然、盛んな農業、北部の平野に多い人口などの特色を理解している。
			・九州地方の地域的特色を理解するために、「九州地方では、自然環境と人間との関係はどのように変化してきたでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって意欲的に追究する。	態度	●自然環境を中核とした考察の仕方に基づいて設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
72	p.188～ 189	2 自然がもたらす災害や困難	・九州地方に多い火山の噴火による被害とその対策に着目し、人々が火山とともに生活していることを理解する。	知技	●桜島の火山噴火にともなう自然災害の実情や災害報道、人々が行う火山灰対策を理解している。
			・九州地方に多い豪雨による土砂崩れと水害について、自然環境の特色と関連付けて考察する。	思判表	●九州地方の風雨にともなう自然災害を、土地や気候といった自然環境の特色と関連付けて考察している。
73	p.190～ 191	3 自然を生かした生活や産業	・九州地方に多い火山に着目し、災害を与える一方で恵みももたらしていることを理解する。	知技	●大分県が火山の恵みを、温泉地や地熱発電所に利用してきたことを理解している。
			・九州地方で盛んな農業や観光業に関する具体的な資料を通して、産業が各地の自然条件に応じて発達してきたことを理解する。	知技	●九州地方の農業は南北で大きく異なること、沖縄県では美しい自然環境を生かした観光業が盛んであることを、それぞれの自然条件や課題と結び付けて捉えている。

74	p.192～ 193	4 環境と開発の両立を目指して	・九州地方の工業の発展で起きた環境問題とその対策の過程について、具体的な資料を通して理解する。	知技	●北九州市の新旧写真の比較や水俣市のごみ分別の現状から、環境が大きく改善したことを読み取り、両市の環境保全への取り組みを理解している。
			・九州地方の各地で行われている持続可能な社会を実現するための取り組みについて、環境と開発の両立の視点から考察する。	思判表	●北九州市と水俣市の環境問題に関する共通点と相違点を捉え、持続可能な社会を実現するための取り組みについて考察している。
75	p.194～ 195	■まとめの活動 九州地方の学習をまとめよう	・自然環境を中核とした考察の仕方を取り上げた九州地方の地域的特色とそこで生ずる課題を「まとめの活動」を通して振り返り、これらを理解する。	知技	○自然環境を中核とする考察の仕方を基に、学んできた九州地方の地域的特色やそこで生ずる課題を図にまとめて振り返り、理解している。
			・九州地方に見られる特色ある産業や生活・文化が成り立つ条件を、自然環境や地域の結び付き、人々の対応などと関連付けて理解し、多面的・多角的に考察する。	思判表	○九州地方で、自然環境の影響を受けつつ、特色ある産業や生活・文化が発達してきた理由を多面的・多角的に考察し、表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、九州地方の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。

2 節 中国・四国地方

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : C (3) ④

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解させる。	知識・技能	○中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
	・④交通・通信を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解させる。		○④交通・通信を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
	・中国・四国地方において、④交通・通信の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○中国・四国地方において、④交通・通信の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
76	p.196～ 199	■節扉 1 中国・四国地方をながめて	・中国・四国地方について、人口分布図や統計グラフなどの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	知技	●自然環境の異なる三つの地域、人々の生活や産業を変えた交通・通信網の整備、瀬戸内に集中する人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。
			・中国・四国地方の地域的特色を理解するために、「中国・四国地方の交通・通信網の変化は、人々の暮らしにどのような影響をあたえてきたでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	態度	●交通・通信を中核とした考察の仕方に基づいて設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
77	p.200～ 201	2 交通網の整備と人々の生活の変化	・中国・四国地方の交通網の整備について、地図、写真などの具体的な資料を通して、理解する。	知技	●中国・四国地方では、城下町を起源とする都市が拠点となって古くから交通が発達し、他地域との結び付きによって都市が発展してきたことを理解している。
			・中国・四国地方の交通網の発展による地域の影響について、利点と課題の両面から考察する。	思判表	●交通網の整備を、移動時間の短縮やストローク現象などと関連付けて考察している。
78	p.202～ 203	3 交通網の整備と産業の変化	・瀬戸内で工業が発達してきた歴史的背景を土地利用の変化や海上輸送による他地域との結び付きに着目して理解する。	知技	●原料や製品の輸送に着目して、海上輸送に適した瀬戸内で工業が発達してきた背景について理解している。
			・中国・四国地方では地域の特色を生かしたさまざまな農水産物の生産が見られ、交通網の整備によって大都市に出荷されていることを理解する。	知技	●高速道路などの交通網の整備によって農水産物が大都市に輸送できるようになり、市場が拡大し競争力が高まったことを理解している。

79	p.204～ 205	4 人・物・情報で 結ばれる地域と世界	・中国・四国地方の市町村別の老年人口割合の地図に着目し、高齢化が進む過疎地域の分布の特色を理解する。	知技	●過疎地域が山間部や瀬戸内海の島々の多くに分布していることをその原因や対策とともに理解している。
			・過疎地域が行っている町おこし・村おこしの成果と課題について、特色ある観光資源や交通・通信網の活用などの視点から考察する。	思判表	●過疎地域の対策について、交通・通信網の整備と関連付けて考察し、表現している。
80	p.206～ 207	■まとめの活動 中国・四国地方の学習をまとめよう	・交通・通信を中核とした考察の仕方を取り上げた中国・四国地方の地域的特色とそこで生ずる課題を「まとめの活動」を通して振り返り、これらを理解する。	知技	○交通・通信を中核とする考察の仕方を基に、学んできた中国・四国地方の地域的特色や交通・通信網の発達による変化を図にまとめて振り返り、理解している。
			・中国・四国地方の交通・通信の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、中国・四国地方で交通・通信網が重要な役割を果たしている理由を多面的・多角的に考察する。	思判表	○中国・四国地方で、交通・通信網が重要な役割を果たしている理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を通して具体的に表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、中国・四国地方の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。

3 節 近畿地方

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : C (3) ②

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解させる。	知識・技能	○近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
	・②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解させる。		○②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
	・近畿地方において、②人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○近畿地方において、②人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
81	p.208～ 211	■節扉 1 近畿地方をながめて	・近畿地方について、地形図や人口分布図などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	知技	●南北で大きく異なる地形や気候、人口や産業の変化などの特色を大まかに理解し、その知識を身に付けている。
			・近畿地方の地域的特色を理解するために、「近畿地方の都市と農村は、どのように変化してきたでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	態度	●人口や都市・村落を中核とした考察の仕方に基づいて設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究している。
82	p.212～ 213	2 大都市圏の形成と古都の歴史	・近畿地方の大都市圏の成り立ちや工業の発達について、地図や写真などの資料を通して、理解する。	知技	●大阪大都市圏を中心に、早くから都市と産業が発達した背景を理解し、その知識を身に付けている。
			・近畿地方の古都などに見られる伝統的な文化、歴史的な景観の保存と開発について、調和という視点から考察する。	思判表	●京都市に残っている伝統的な文化や歴史的な景観の保存の意義と課題について、多面的・多角的に考察している。
83	p.214～ 215	3 ニュータウンの変化と農村の変化	・近畿地方の都市の発展や、開発とその課題について、地図や写真などを使って理解する。	知技	●神戸市などで大規模な開発が行われてきたこととその課題を、地図や写真を使って読み取っている。
			・近畿地方の都市の課題を解決するためにニュータウンが建設された背景や現状、過疎化が進む農村の課題に着目し、都市と農村の変化について考察する。	思判表	●ニュータウンや過疎化が進む地域の課題について、都市と農村の変化の視点から多面的・多角的に考察している。

84	p.216～ 217	4 山村・漁村の暮らしと地域の結び付きの変化	・近畿地方の市町村別人口増減率の地図に着目し、過疎地域の分布の特色を理解する。	知技	●地図を通して過疎地域が都市から離れた山間部や離島に分布していることを理解している。
			・過疎地域が行っている地域活性化の成果と課題について、特色ある産業や景観、都市部との交流などの視点から考察する。	思判表	●過疎地域の対策について、都市部との交流と関連付けて考察し、表現している。
85	p.218～ 219	■まとめの活動 近畿地方の学習をまとめよう	・人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた近畿地方の地域的特色とそこで生ずる課題を「まとめの活動」を通して振り返り、これらを理解する。	知技	○人口や都市・村落を中核とする考察の仕方を基に学んできた近畿地方の地域的特色やそこで生ずる課題を表にまとめて振り返り、理解している。
			・近畿地方の人口や都市・村落とその成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、近畿地方で都市や農村の姿が変化してきた理由を多面的・多角的に考察する。	思判表	○近畿地方の人口・都市・村落の変化の理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を生かして具体的に表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、近畿地方の学習内容を振り返って、探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測探究をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。

4 節 中部地方

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : C (3) ③

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・ 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解させる。	知識・技能	○ 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
	・ ③産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解させる。		○ ③産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
	・ 中部地方において、③産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○ 中部地方において、③産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ 中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○ 中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
86	p.220～ 223	■ 節扉 1 中部地方をながめて	・ 中部地方について、地形図や統計グラフなどの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	知技	● 三つに分かれる地域の地形や気候、日本最大の工業生産額とその他の特色ある産業、東海地方に集中する人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。
			・ 中部地方の地域的特色を理解するために、「中部地方の産業は、どのような条件に支えられて発展してきたのでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	態度	● 産業を中核とした考察の仕方に基づいて設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
87	p.224～ 225	2 中京工業地帯と東海の産業	・ 東海で発展した世界をリードする各種の工業について、その変容にともなう課題の視点から考察する。	思判表	● 東海の工業の特色について、交通網や貿易などの社会的条件と関連付けて多面的・多角的に考察している。
			・ 東海で盛んな農業に関する具体的な資料を通して、各地の自然条件と社会的条件に応じて発達してきたことを理解する。	知技	● 東海の農業の特色を、自然の特色や交通の発達などを示す資料と関連付けて読み取っている。
88	p.226～ 227	3 中央高地の産業の移り変わり	・ 中央高地で盛んな農業や工業に関する具体的な資料を通して、各地の自然条件と社会的条件に応じて発達してきたことを理解する。	知技	● 中央高地の農業や工業の特色を、自然の特色や交通の発達、戦争との関連などを示す資料と関連付けて読み取っている。
			・ 中央高地にある歴史的な家屋や町並みに着目し、観光業を中心とした地域づくりをしていることを理解する。	知技	● 宿場町や合掌造り集落を活用して観光業を盛んに行っていることを理解している。

89	p.228～ 229	4 北陸の米づくり と個性ある地場産業	・北陸で盛んな農業や工業に関する具体的な資料を通して、各地の自然条件と社会的条件に応じて発達してきたことを理解する。	知技	●北陸の農業や工業の特色を、豊富な雪どけ水などを示す資料と関連付けて読み取っている。
			・北陸の伝統産業や地場産業について、自然条件や歴史的背景などの視点から考察する。	思判表	●北陸の伝統産業や地場産業が発展した理由について、冬に雪が多い気候の特色と関連付けて考察し、その過程や結果を表現している。
90	p.230～ 231	■まとめの活動 中部地方の学習をまとめよう	・産業を中核とした考察の仕方で取り上げた中部地方の地域的特色とそこで生ずる課題を「まとめの活動」を通して振り返り、これらを理解する。	知技	●産業を中核とする考察の仕方を基に学んできた中部地方で盛んな産業と、その産業が盛んとなった理由を図にまとめて振り返り、理解している。
			・中部地方の産業とその成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、中部地方で個性的な産業が発達している理由を多面的・多角的に考察する。	思判表	●中部地方の個性豊かな産業が発達している理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を生かして具体的に表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、中部地方の学習内容を振り返って、探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。

5 節 関東地方

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : C (3) ④

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・ 関東地方について、その地域的特色や地域の課題を理解させる。	知識・技能	○ 関東地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
	・ ④交通・通信を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解させる。		○ ④交通・通信を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
	・ 関東地方において、④交通・通信の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○ 関東地方において、④交通・通信の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ 関東地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○ 関東地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
91	p.232～ 235	■ 節扉 1 関東地方をながめて	・ 関東地方について、人口分布図や統計グラフなどの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	知技	● 山地に囲まれた広大な平野と特色ある気候、日本最大の人口密集地域、日本の交通と通信の中心地などの特色を理解し、その知識を身に付けている。
			・ 関東地方の地域的特色を理解するために、「関東地方は、地方の中で、また国内や世界とどのように結び付いているでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	態度	● 交通・通信を中核とした考察の仕方に基づいて設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
92	p.236～ 237	2 世界や日本と結び付く東京	・ 東京にさまざまな機能が集中し、日本や世界各地との結び付きが強いことを理解する。	知技	● 東京にさまざまな機能が集中している理由を、政治的中枢機能が集中していることと関連付けて捉えている。
			・ 関東地方が世界への玄関口となっていることを、モノや人の移動の視点から考察する。	思判表	● 関東地方と世界との結び付きについて、在留外国人数、大使館の分布などの資料を基に、多面的・多角的に考察し、表現している。
			・ 東京大都市圏の観光地に、国内外から多くの人々が訪れることに着目し、交通網と観光産業の関連について理解する。	知技	● 特に外国人観光客の増加について写真やグラフから読み取り、交通網の発達に関連していることを理解している。

93	p.238～ 239	3 通勤・通学で結び付く東京大都市圏	・企業や学校などが集中する東京は、通勤・通学で広い地域と結び付いており、東京大都市圏が形成されていることを理解する。	知技	●東京を中心として交通網が形成され、通勤・通学で強い結び付きをもった東京大都市圏が拡大していったことを理解している。
			・東京大都市圏における都心部と郊外の人口動態に着目し、その結び付きと課題について考察する。	思判表	●東京の都心部と郊外の関係について、通勤・通学や都市機能の分散を交通網と関連付けて考察し、表現している。
94	p.240～ 241	4 人や物が集まる大消費地の関東地方	・関東地方の工業の特色を、臨海部と内陸部の結び付きに着目しながら理解する。	知技	●関東地方の農業や工業の特色とその変容について、東京と周辺地域との結び付きや人口分布の変化などに着目して捉えている。
			・関東地方で農業が盛んな理由を、大消費地との結び付きと関連付けて考察する。	思判表	●関東地方の農業地域と大消費地との関連を考察している。
95	p.242～ 243	■まとめの活動 関東地方の学習をまとめよう	・交通・通信を中核とした考察の仕方を取り上げた関東地方の地域的特色とそこで生ずる課題を「まとめの活動」を通して振り返り、これらを理解する。	知技	○交通・通信を中核とする考察の仕方を基に学んできた関東地方の地域的特色を、東京と世界や日本の他の地域との結び付きの形や手段を図にまとめて振り返り、理解している。
			・関東地方の交通・通信の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、関東地方で他の地域と強い結び付きが見られる理由について多面的・多角的に考察する。	思判表	○関東地方で他の地域と強い結び付きが見られる理由を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を生かして具体的に表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、関東地方の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。

6 節 東北地方

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : C (3) ⑤

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・東北地方について、その地域的特色や地域の課題を理解させる。	知識・技能	○東北地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
	・⑤その他 (生活・文化) を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解させる。		○⑤その他 (生活・文化) を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
	・東北地方において、⑤その他 (生活・文化) の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○東北地方において、⑤その他 (生活・文化) の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・東北地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○東北地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
96	p.244～ 247	■節扉 1 東北地方をながめて	・東北地方について、地形図や、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	知技	●山地が多く東西で大きく異なる気候、盛んな農業、鉄道や道路の路線に集中する人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。
			・東北地方の地域的特色を理解するために、「東北地方の生活・文化は、どのようにして受け継がれてきたでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	態度	●伝統的な生活・文化を中核とした考察の仕方に基づいて設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究している。
97	p.248～ 249	2 伝統行事と生活・文化	・東北地方の生活・文化について、伝統的な民俗行事の資料を通して理解する。	知技	●祭りをはじめとする独特の民俗行事や習慣を示す写真資料を通して、東北地方の生活・文化の特色を理解している。
			・東北地方の伝統行事や習慣を通して、自然環境や歴史的背景、産業などの地域的特色を理解する。	知技	●伝統行事や食文化、習慣と、農業や気候との関連を通して、東北地方の地域的特色を捉えている。
98	p.250～ 251	3 伝統産業の変化とグローバル化	・東北地方の伝統産業や地場産業の特色について、自然環境との結び付きから理解する。	知技	●東北地方の伝統産業や地場産業が発展した理由について、自然環境の特色と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
			・伝統的な産業が、世界市場や社会の変化と結び付きながら変化し、発展していることを考察する。	思判表	●東北地方の産業の課題や転換について、時代や社会の動きなどと関連付けて、多面的・多角的に考察している。
99	p.252～ 253	4 記憶の継承と地域づくり	・東北地方でくり返されてきた地震や津波の被害に着目し、被災した人々が残した教訓について理解する。	知技	●東日本大震災の被害の経験について関心を持ち、過去の災害の教訓がどのように生かされているのかを理解している。
			・東北地方の生活・文化と不可分な災害の歴史と教訓を通して、先人の思いや今後の社会の在り方について考察する。	思判表	●石碑や伝承などを通して、人々がどのような思いで災害の教訓を受け継ぎ、未来へ向けて生かそうとしてきたのか、多面的・多角的に考察し、表現している。

100	p.254～ 255	■まとめの活動 東北地方の学習をまとめよう	・生活・文化を中核とした考察の仕方を取り上げた東北地方の地域的特色とそこで生ずる課題を「まとめの活動」を通して振り返り、これらを理解する。	知技	○生活・文化を中核とする考察の仕方を基に学んできた東北地方の地域的特色を、受け継がれている生活・文化に着目して図にまとめて振り返り、理解している。
			・東北地方の生活・文化の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、東北地方で伝統的な生活・文化が守られ、継承されてきた理由を多面的・多角的に考察する。	思判表	○東北地方で伝統的な生活・文化が守られ、継承されてきた理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を生かして具体的に表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、東北地方の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。

7 節 北海道地方

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : C (3) ①

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解させる。	知識・技能	○北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。
	・①自然環境を中核とした考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解させる。		○①自然環境を中核とした考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。
	・北海道地方において、①自然環境の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。	思考・判断・表現	○北海道地方において、①自然環境の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	・北海道地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	主体的に学習に取り組む態度	○北海道地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
101	p.256～ 259	■節扉 1 北海道地方をながめて	・北海道地方について、地形図、雨温図などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	知技	●日本の約20%をしめる広大な面積、亜寒帯に属す気候、盛んな農業、少ない人口などの地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
			・北海道地方の地域的特色を理解するために、「北海道地方の自然環境は、地域の産業や文化にどのような影響をあたえてきたでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	態度	●自然環境を中核とした考察の仕方に基づいて設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
102	p.260～ 261	2 自然を生かした生活や産業	・北海道の厳しい自然環境とそれに対する生活の工夫について、景観写真や模式図などの読み取りを通して理解する。	知技	●冬の寒さや火山活動による厳しい自然環境に対して、人々がどのような工夫を行っているのかを資料などから適切に読み取っている。
			・北海道の人々が自然環境をどのように活用しているのか、気候、火山や漁業などの視点から考察する。	思判表	●北海道地方では、冬の寒さや火山、豊かな海を利用した産業が行われていることを多面的・多角的に考察し、表現している。
103	p.262～ 263	3 厳しい自然や社会の変化への対応	・北海道地方の厳しい自然環境の中で、人々がどのような工夫や努力を行って農業を営んできたのかを捉え、理解する。	知技	●農業に適さない気候や土壌の問題に対して、人々がどのように対応し、乗り越えて農業を営んできたか理解し、その知識を身に付けている。
			・今後の北海道地方の農業の在り方について、国際競争と地産地消の視点から考察する。	思判表	●現在、北海道の人々が直面している課題に対して、どのように対応すべきかを多面的・多角的に考察している。

104	p.264～ 265	4 世界とのつながりと環境とのかかわり	・北海道地方の観光業に着目し、冷涼な気候は各地から観光客をひきつけていることを理解する。	知技	●気候の特色によって、北海道地方への観光客が8月に多いことを理解している。
			・北海道地方の観光客の増加について、地域の発展と環境保全の視点から考察する。	思判表	●北海道地方の観光業について、広がるエコツーリズムなどの持続可能な社会づくりと関連付けて考察し、表現している。
105	p.266～ 267	■まとめの活動 北海道地方の学習をまとめよう	・自然環境を中核とした考察の仕方を取り上げた北海道地方の地域的特色とそこで生ずる課題を「まとめの活動」を通して振り返り、これらを理解する。	知技	○自然環境を中核とする考察の仕方を基に、学んできた北海道地方の地域的特色を、関連する事象を結び付けて図にまとめて振り返り、理解している。
			・北海道地方の自然環境とそこで暮らす人々の生活の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、北海道地方でたくさんの農作物を出荷したり、観光客をひきつけたりしている理由を多面的・多角的に考察する。	思判表	○北海道地方で、自然環境の影響を受けつつ、たくさんの農作物を出荷したり、観光客をひきつけたりしている理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を生かして具体的に表現している。
			・よりよい社会の実現を視野に、北海道地方の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。	態度	○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。

第4章 持続可能な地域の在り方

(配当5時間)

学習指導要領との関連：C(4)

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・ 地域の実態や課題解決のための取り組みを理解させる。	知識・技能	○ 地域の実態や課題解決のための取り組みを理解している。
	・ 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解させる。		○ 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。
	・ 地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想、表現させる。	思考・判断・表現	○ 地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	・ 地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○ 地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
106	p.269～ 271	■ 章扉 1 課題をとらえ、 問いを立てよう	・ 身近な地域の課題を、学習した「世界や日本のさまざまな地域」に見られた課題を参考にして、SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」の視点から見つける。	知技	● 身近な地域の課題を、SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」と結び付けて理解し、見出している。
			・ 身近な地域の課題を、「世界や日本のさまざまな地域」に見られた課題と比較し、見通しをもって主体的に追究する。	態度	● 身近な地域を、住みやすく、よりよいまちにするための課題を予測し、その解決へ向けて見通しをもって主体的に追究していこうとしている。
107	p.272～ 273	2 地域を調査し、 課題をとらよう	・ 身近な地域の課題が、どこでどのように起こっているかを、位置や分布に注目して捉える。	知技	● 学習した「地域調査の手法」を基に、身近な地域の野外観察や統計資料の調査、地形図の読み取りなどを適切に行っている。
			・ 身近な地域の課題が、どのような経緯で起こってきたかを、地域の移り変わりに注目して多面的・多角的に考察する。	思判表	● 調査に基づき、地域の課題の現れ方やその経緯について、多面的・多角的に考察している。
108	p.274～ 275	3 課題の要因や影響を考察しよう	・ 地域の課題の要因やその影響について、地域内外の結び付きや地域の変容に着目し、考察する。	思判表	● 身近な地域の課題は、なぜ生まれ、地域にどのような影響をあたえているのかを、多面的・多角的に考察している。
				知技	● 地域の課題の要因やその影響について、図表などを用いて適切に整理している。
109	p.276～ 277	4 解決策を議論し、 構想しよう	・ 身近な地域の課題の解決策を、類似の課題が見られる他地域との比較、関連付けを通して理解する。	知技	● 他地域の課題などの実態や課題解決のための取り組みを理解している。
				思判表	● 同じような課題に直面している他地域の取り組み事例を調査し、実際に行われている対策を評価し、地域の課題の解決策の参考にしている。

110	p.278～ 279	5 地域のこれからを提案し、発信しよう	・地域に見られる課題の解決に向けて考察、構想したことを整理し、地図や図表を用い、報告書やプレゼンテーションソフトなどにまとめて発表する。	知技	○地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。
			・地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、具体的な解決策として表現する。	思判表	○地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
			・地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。	態度	○単元冒頭に立てた身近な地域の課題やその解決策の予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら、地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野に粘り強く考察し、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。